

2011年3月30日

第10号

東日本大震災 救援復興 FAX ニュース

全国保険医団体連合会

■(3/29)福島協会 K 歯科医師「人手足りない。巡回診療車を」

皆様にご心配いただき、支援物資等も届けていただき、本当にありがとうございます。

昨日、松尾静岡協会事務局長、山田保団連次長においでいただき、打合せの後、今日から相馬方面に兩名と、協会事務局2名の合計4名で訪問に出発しました。

午前中に、当協会井桁より一報があり、当会会員の K 歯科医院に到着。先生によると、避難所を回っているが、そちらを診ていると、自分の診療所で診られない。相馬に2500人位避難してきているし、原町(南相馬)には200人位残っているらしい。新地町にもいるので、全く人手が足りない。検死等もあり出来たら巡回診療車が欲しい。歯間ブラシや洗口液がほしいとのことでした。

また、報告が遅くなりましたが、26日に理事会を開催、対策本部を設置し、震災にあたっての国と行政の医療提供体制確保の責任と施策を求める取り組み、会員訪問と安否確認・被災状況確認、を柱に取り組みを進めることを確認しました。また原発事故が発生した当該県として「福島原発事故についての緊急声明」を確認し、政府・東京電力、原子力安全保安院、電気事業連合会、福島県等に要請、マスコミに配布することとしました。

■(3/29)保団連支援隊、宮城・仙台市、気仙沼市の会員訪問

[気仙沼方面]

朝 7 時 30 分にホテルを出発し、途中道に迷いながら 12 時に気仙沼の斉藤外科クリニックに到着。車をおいてタクシーで訪問活動開始。全体的には今回の被災地の中心のひとつでもあり、想像を絶する光景が随所にみられた。



全壊、半壊のところ、建物は無事だが浸水、泥水により、再開のめどがたっていないところ、再開するにしても年齢と資金の関係で悩んでおられる先生などがほとんど。不在の先生も近くの市役所の診察室や検死などにたずさわっておられた。

診療所横で医療器具を手洗い。

[仙台南方面]

福島県境より太平洋沿岸地域を北上しつつ、仙台東近辺までの医療機関の状況を視察。常磐自動車道、

仙台東部道路を境に被害状況が基本的に変化するよう。沿岸の特に海岸隣接地域は、津波が住居等を総ざらいし、ヘドロにまみれて、自動車、ガスタンク、鳥居(?)、電信柱等が漂流・傾斜・倒壊しており、復旧の見通しはかなり厳しい状況。自衛隊車両がひっきりなしに行き来している。場所に寄っては自動車立入り禁止区域に。

自衛隊ががれき撤去作業を勧めているが、「遺体の有無もあるため、重機では難しいようだ」との声。沿岸に直接隣接する所では、(見た範囲では)成人男子身長程度の浸水があり、ヘドロが残留しているため、復旧作業は非常に困難な状況。より内陸の地域では、建物全体は無事のようなのだが、クラックやズレが発生しており、今後詳細な調査を行うとの声。幹線道路沿いでは(今日の限りでは)2~3日前より医薬品の供給のメドがつつつつある様子。

コンビニは営業しているがおにぎり、パン、水は全くない。ガソリンスタンドは長蛇の列、整理券配布及び営業終了の状態。

■(3/24)保団連、東日本大震災を受け、緊急マスコミ懇談会



保団連は3月24日、東日本大震災を受け緊急のマスコミ懇談会を開催しました。懇談会には、朝日、読売、日経、東京(中日)、しんぶん赤旗各紙、日経BP社、じほう、m3.com、キャリアブレイン、ロハスメディカルから12人が参加しました。保団連からは、宇佐美宏歯科代表、竹崎三立副会長、杉山正隆理事、小川昭兵庫協会事務局次長、小川統一東京保険医協会事務局次長が出席。また、日本医療労働組合連合会(医労連)の田中千恵子委員長、日本医療福祉生活協同組合連合会(医療福祉生協連)の藤谷恵三専務理事が出席し、各団体の取り組み、現場の実態や要求、政府・行政への要請活動について報告しました。

竹崎副会長は、被災各協会からの報告や、支援の状況を踏まえ、被災者の保険診療の取り扱い、医薬品・医療材料の確保、診療報酬請求の取り扱いについて、「被災地と被災者の支援のために、医療機関が診療を継続できる条件を整備することが不可欠」だと強調しました。その中で、「被災者の診療に当たる医師、歯科医師は、被災者の被災状況をいちいち確認するすべはない」、被災者の医療費一部負担金免除を直ちに実施すべきとし、菅首相と細川厚労大臣宛に要請。他に、①被災地域への医療機関への医薬品、医療材料などの迅速な供給・確保を実施することなど、被災者医療と医療確保提供体制確保に関する要請、②チラージンスの緊急輸入・海外支援要請の緊急要請、③被災者の医療費一部負担金等の免除に関する要望、④通常診療が不能に陥った被災地域のすべての医療機関を対象に、診療報酬・介護報酬の概算請求に取り扱いについての要請、⑤被災医療機関への公的助成の緊急要望などの取り組みを紹介しました。

宇佐美歯科代表は、「水不足のためうがいができず、義歯も洗えない」と被災者の口腔状態の悪化を懸念。誤嚥性肺炎になる危険性を指摘し、被災者の口腔ケアの必要性を強調しました。その上で、保団連では、各地の保険医協会・医会と協力して、メーカーや小売業者に歯ブラシの無

償提供を依頼、被災各地に歯ブラシを送る予定であることを報告しました。

震災直後に保団連現地支援先遣隊として被災地に入った小川昭兵庫協会事務局次長は、被災地の状況を報告。被災地の各協会では、会員の安否確認、医療機関の被災状況の集約など支援活動に全力をあげていることを報告。「ライフラインがストップし、食料の確保も困難で悲惨な状況」であり、地域住民の命と健康を支える民間の医療機関を立て直すことが、地域住民の命と健康を守ることになる。立て直しのための公的助成は不可欠」だと強調しました。

小川統一東京協会事務局次長は、経腸栄養剤「エンシュア・リキッド」が、缶容器の製造元が被災したことで、供給再開の目途が立っていないことを報告。代替品について医療機関の購入価格での保険請求を認めるよう、要望したことを報告しました。また、福島県からの透析患者を受け入れた東京都内の医療機関が、自院の透析室が手狭なため、やむなく他医療機関を受診して透析を実施している事例を報告。このような非常時でも医療機関が入院基本料の減額分を甘受せざるを得ない状況がでていることを紹介。「多くの矛盾と問題を生んでいる入院中の他医療機関受診規制は直ちにやめてほしい」と訴えました。このほか、東京電力の計画停電により、「いつ停電になるのかはつきりせず、医療計画が立てられない」との声が相次いでいることを紹介し、「医療機関への配慮を」強く求めました。

医労連の田中委員長は、東北6県と茨城県で被災者救済にあたる医療従事者の活動を紹介。「もともと医師・看護師が不足する中、大災害時にはさらに足りない。また、災害時こそ公的病院が存続し、責任と役割を果たすことが不可欠」だと述べました。

医療福祉生協連の藤谷専務理事からは、医療機関への慢性疾患の医薬品が全国的な品薄になっている状況などが報告されました。また、1800を超える介護事業所やデイサービスで、ガソリンが足りず搬送ができないため「公的な力の投入を早急に行ってほしい」と述べました。

出席した記者からは、「被災地からの避難者を都内で診察したときに、全壊か半壊かといった状況がわからない中で、どう対応しているのか」といった質問や、「足りない医薬品は何か」、「保団連・協会の今後の被災地支援の計画は」といった質問が出され、現在の取り組みと今後の計画などを報告。最後にマスコミ各社に対して、報道や情報の提供など、可能な限り協力を求めたいと訴えました。



2011年3月24日

第6号

東日本大震災 救援 FAX ニュース

全国保険医団体連合会

■宮城協会・仙台訪問報告…兵庫協会・広川 恵一役員



避難所で診察にあたる広川医師（右）。

このたび保団連医療支援チームとして現地に向かいました
メンバーは

和歌山保険医協会 小野寺理事・上野事務局長
兵庫県保険医協会 足立事務局長・横山事務局長と私です

訪問先は宮城県保険医協会と仙台周辺

目的は

- 宮城協会を中心とした被災状況をうかがう
- 医療機関を中心とした被災状況とニーズを知る
- 被災状況みききする中で阪神淡路大震災と比較しながら課題を検討しあう
- 行政のとりにくみ状況・医療供給状況・課題をうかがう
- 必要であれば被災地診療の足りないところの協力を行う
- 避難所を訪問し状況について現地のスタッフから話を聞く
- 地元の手による拠点づくりへの協力と今後にわたる関わりの可能性を考える

日程は

和歌山協会は3月20～21日

兵庫協会は当初3月20～21日を予定していましたが

現地で一旦20～23日と最終的に上記目的から20～21日としました

以下報告です（半括弧はうかがった話の内容です）

3月20日

訪問先

宮城県保険医協会事務局・仙台医療館・避難所(鶴巻・岡田小学校)・県庁・協会事務局

<山形から仙台に>

- 陸路日本海回りで山形(足立・横山事務局員)、空路で伊丹(7:25am 発)から山形に(広川)
- 山形空港で神戸からの足立・横山事務局員 2 名と合流
- 薬剤・医療資機材搬入の車で一部山形道を通って仙台に
- 緊急車両(県警に申請)で山形・東北高速道路使用(無料)・給油可能(20L 午後 5 時まで)
- 途中一般道では 200~300 台の給油まち(20L・3000 円まで)のところが見られる
- コンビニエンスストアは閉店~制限した開店・開店まち客が列を作る

<和歌山県保険医協会>

- 宮城保険医協会と和歌山協会の小野田協会理事・上野事務局長と合流
- 小野田 Dr の話に今後予想される東海・東南海・南海・中央構造線地震への備えを感じた
- 小野田 Dr をはじめとして和歌山県協会との研究会や連携は大切と考える
- 阪神淡路大震災ー東日本大地震ー予想される東海・東南海・南海・中央構造線地震

<宮城保険医協会>

宮城事務局長・野地事務局長より説明

- 1) 会員の被災状況は入手できていない
- 2) 23 日から現地対策本部となる(それまで会長の医院が対応)
 - 宮城協会会長・北村神経内科・仙台医療館に移動(仙塩街道:仙台と塩竈のほぼ中間地点)
 - 途中仙台医療館の手前の七北田川の川堤に溢水あとがみられる
 - 仙台医療館 500m まで津波が押し寄せたとのこと

<宮城協会会長・北村先生(北村神経内科・仙台医療館)宮城野区>

- 会長の医院に移動し会長から現地の状況など説明を受け懇談
 - 1) 気仙沼で会員が 2 人亡くなった
 - 2) 水没・損壊した診療所が多い
 - 3) 震災後スタッフとも泊まり込み・2 日前から水道が使える
 - 4) 3 日間は薬手渡すだけの診療体制・後片付けに追われる
 - 5) 会員の安否確認とニーズの把握に努めたい
- 被災保険医療機関の診療報酬概算請求制度について説明

<避難所訪問>

鶴巻小学校と岡田小学校の避難所 2 カ所で診察・外傷処置・健康相談など

[鶴巻小学校避難所]

- 水は 2 日前から出るようになった
- 支援団体は滋賀県健康福祉部・新潟県・仙台国立医療センター
- 医療関係では仙台医療センターのメンバーが入っている
- 滋賀県のメンバーに薬剤師がいて車からの必要薬剤取り出しにとっても助かった
- 外傷処置では津波で両親を助け子どもを抱きかかえて下腿切傷処置が不十分なまま化膿

[岡田小学校避難所]

- 水はまだ出ず
- 体育館で「血圧が高い人や診察の必要な人は」と声をかけ手の上がったところに対応
- 降圧剤がない・切れたという人たちが目立つ
- 喘息で薬がない(津波で取り出せなかった)人など
- アトピー・花粉症の子どもの母親が困っているなど
- 医療班としては広島医療センターが入っている

[両避難所の特徴]

- 両避難所とも医療ニーズは極めて高い
- 診察・投薬・処置と安心をはかるゆっくり話を聞く対応が必要(医療ニーズ)
- 阪神淡路大震災でも同様だったが内服していた薬をなくしている人が多い
- この時期になると切らしてきている(そのことで不安をもっている)人が多い
- 降圧剤・経口糖尿病薬・喘息治療薬・抗生剤・消毒薬・ガーゼのニーズは高い
- 北村神経内科の長島看護師とペアを組み診療させてもらった
- ナースのサポートで言葉の面でも気持ちの面でも安心感がありスムーズにすすめられる
- 避難所でナースと震災後はじめて避難していた人と安否確認できる場面もあり
- 避難所では複数の看護スタッフが求められる(その必要性がわかる人は極めて少ない)
- 仙台市内は落ち着いているが沿岸側は津波被害甚大(仙台以南は津波の経験が余りない)
- 避難所の人たちの多くは津波で車・自宅が押し流されている～使えない状態
- 家族が亡くなっている人が多い
- 神戸から来たと伝えるととても喜んでくれる
- 全国からの支援を心からうれしいと言ってくれる(みな同じ気持ちだと思われる)
- 津波が町全体を襲ったところの地元医療機関は被災状況は極めて大きい
- かかりつけ医療機関の機能回復の人的・物的支援による速やかな通常診療復帰が大切
- 避難所では診療再開医療機関の情報の案内徹底と搬送を含め受診すすめることが大切

<県庁訪問>

- 県庁で上原災害医療コーディネーターとの被災地の課題について懇談(会議中も余震)
 - 依頼を受けて東北大学から市を除く県全域のコーディネーターとしてつめている
 - 県保健福祉部医療整備課地域医療班の職員さんに代わり多忙な中時間をとってもらった
- 1) D-MAT・J-MAT など災害医療機能のシステムが機能した
 - 2) 避難所からのニーズがつかみにくい
 - 3) 災害による外傷・疾患に加え、慢性疾患の悪化、新たな疾患への対応が今後必要
 - 4) 通常診療への漸次以降が大切
 - 5) 医療ボランティアの調整に手間がとられセクリタリー機能のあるボランティアが必要
 - 6) 災害対策は県の対策と市の対策がそれぞれ別
 - 7) 行政のできることは対応できるが要望がさまざま行政のできないニーズも出される
 - 8) 行政職員はほんとはよくやっている
 - 9) とにかく大変な状態で報告書も書けない状態 など状況についてお話を聞く
 - 10) 阪神淡路大震災の経験など伝えてほしい

- 現場での現地医療機関との地域医療復旧状況の調整会議など調整機能の発揮が必要
- 避難所へのニーズの積極的な把握を課題とするセクションの設置の必要
- 阪神淡路大震災同様さまざまな現地コーディネーターの心身の健康をまもる部署が大切
- 避難所ニーズの正確な把握とその情報の発信は看護師の役割が大きいことなど伝える

<宮城県保険医協会事務局>

- 県庁訪問のあと宮城保険医協会事務局で北村会長・野地事務局長と検討会
- 持参した薬剤(費用は保団連)を宮城協会に手渡し
- 薬剤については先発メーカーのもので使用頻度の高いものとした
(薬剤・医療機材一覧は別記)

<和歌山協会との協力>

- 和歌山協会 2 名と兵庫協会 3 名で訪問・避難所での治療など機能的に対応できた
- 小野田 Dr より宮城協会に多数の医薬品・食料品の提供あり
- 宿泊は避難所予定していたが疲労と翌日の予定もあり宿舎を確保することとした
- 仙台では宿舎は満杯で水・ガスのでない施設が多くみられた
- 午後 6 時に和歌山協会の宿泊を仙台に兵庫は山形駅前にとり協会事務局で解散 6:00pm
- 移動には絶えずガス欠に気を配る(高速自動車道でも給油は 5PM まで)
- 移動車中では訪問のまとめ・確認を行い宿舎では報告書作成

3 月 21 日

訪問先

仙塩街道・多賀城市津波被災地・坂総合病院・避難所(天真小学校)・亘理避難所(吉田小学校)

<山形から仙台の状況> 8:00am 出発

- 山形市内は目につく被害なし
- 道路寸断のため山形道から一般道・東北道を通り市内国道 45 号線(仙塩街道)で塩竈に
- 途中の多賀城市は幹線道路・通りの商店など津波での被害甚大
- 破損した車が多数道路際に移動され国道は機能している
- LP ガスは供給できている
- ガソリンスタンドは閉店箇所多く(在庫なし～損壊のため)
- こちらでも給油のため 2～3km の歩道上に並んでの車列がみられる

<塩竈・坂総合病院(350～緊急増床で 390 床)>

病院 2 階の対策本部は 30 人ほど詰めており情報をスクリーンに提示するようにしている
対策本部・副院長の高津 Dr(産婦人科)に被災状況・医療内容の特徴と支援状況を聞く
「私も保険協会の会員です」とのこと多忙な時間を割いて説明していただいた

- 1) 自ら地域の被災状況を見て回ったが多賀城市は水没していた
- 2) 病院はもともと地下水をくみ上げていてその水が使用できた
- 3) ガスが使えず中央材料室機能不能で予定の 3 件帝王切開術以後近隣医療機関と協力
- 4) 病院は 24 時間体制で対応している
- 5) 院搬送は 30 名で死亡した人は 18 人(震災当日 8 人)

- 6) 看護体制は 3 から 2 交代にしている(自宅から移動困難・体制上・ガソリン不足などで)
- 7) 宿泊は 4 月開所予定の保育所など使っている
- 8) 全国民医連・各院所からの救援・応援が翌日から入り対策本部を中心にすすめている
- 9) 意見はいろいろあるが通常体制に明後日から戻す方向
- 10) 神戸協同病院・上田 Dr(20 日より現地)が前日震災についてミニレクチャーがあった
研修医の佐藤 Dr に聞く

- 1) 検死では多くは溺死で医師会を通じて協力した
- 2) 震災当日から体温 22~23℃の低体温症での搬送が多くうち多くの人を救命できた
近隣の医療機関と連携し(燃料事情解決する中で)一刻も早い通常診療体制復帰が望まれる
坂総合病院から車で 10 分の天真小学校避難所(高台にあり周囲は水害被害甚大)に

<天真小学校避難所>

- 救護所で上田 Dr と合流／現地の状況を聞く
- 1) 被災地域が広範囲
- 2) 石油が入らないことが今回の特徴の一つであり大きな問題
- 3) 低体温症での搬送受診が多いのも特徴
- 4) 早急に通常診療体制に戻すようすすめることが大切

天真小学校から仙塩街道を経て仙台市内に

<仙台市内>

- マスク・リュック姿の人が多い
- ここでも開店待ち客が列を作る
- アーケード街は閉店のところが多い・路上での弁当販売・再開始めたところもあり
- 市民を励ます張りがあちこちにみられる
- 仙台駅は機能せず電車発着はなく路上の車台数は少ない
- 駅前の階段は破損あり使用禁止のテープ

仙台から国道 4 号線で名取市を經由東部自動車道通り亘理ランプから吉田小学校避難所に

- 沿岸沿いの広範な地域に水害跡が残り損壊家屋はもちろん自動車の撤去は手つかず
- 盛り土の上の東部自動車道が津波を遮っているが西側にも一部水害のあとがみられる

<亘理・吉田小学校避難所>

避難所・救護室の亘理町保健福祉課の星野保健師から状況を聞く

- 1) 初日には収縮期血圧 200 を越える人が多かった
- 2) 低体温症の人は救急車要請して病院受診しても満床で返され一生懸命温めて助かった
- 3) 血圧が高い状況は医療支援の先生方(岐阜県医療センター)が来られて落ち着いた
- 4) まだインスリンがなく困っている
- 5) 食事は午前 10 時に一日 2 食分だけがまとめて配給される
- 6) 水は出なくて歯ブラシ・紙コップがなく行政を通して要請しているが入らない
- 7) 地震・津波の直後は靴をなくして裸足の人が多かった
- 8) 水はプールの水を使っている
- 9) 1700 名避難され今日は 550 名で親戚に家などに移られあとは住宅のない人・高齢者に

10) 学校がはじまればどうなるのか心配

11) この地の特産はイチゴだが塩害で『もう2〜3年は無理かな』と農家の人は元気ない彼女は在宅の女性を急いで自分の車に乗せて避難中「もう助からない」と思ったとのこと

静かに控えめに語るその姿勢にこれから長期にわたる暮らし再建の確かな力を感じた

<帰路: 亘理町から白石 IC に入り東北・首都圏・東名・名神高速道路>

3:15pm 吉田小学校避難所を出発、11:00pm 牧之原 SA で仮眠し 3:00am 出発 7:00pm 西宮帰着

足立・横山事務局員は 10:00am からの事務局会議で報告に

二人の3日間の走行距離 2000km 超!

おつかれさまでした

<今後>

- 拠点としての宮城協会・保団連現地対策本部と兵庫協会・対策本部の連携課題を明らかに
- 現地対策本部に協会事務局から常時派遣・現地での活動に協力・ニーズ把握・情報の発信
- 避難所・仮設住宅・転居者(兵庫など)のニーズ健康管理の課題について検討する()
- 避難所・仮設住宅の医師歯科医師・薬剤師・看護師による訪問は重要な課題
- 被災医療機関の安否確認(かなり把握されている)と直接的なニーズの把握・情報の收拾
- 阪神淡路大震災の検討・東北関東大地震対応の中で東海・東南海・南海地震に備える
- 阪神淡路大震災と比べ広範であり自治体のそのものの被災であることに留意が必要
- 協会役員の現地訪問を適宜行い連携と協力を具体的にすすめ復旧・復興に協力する
- 原発事故については情報収集と対応部署でのとりくみが必要
- 放射線の研究会(研究部・各支部・薬科部)の開催 1)会員・スタッフ対象・2)市民対象
- 「被災地での生活と医療と看護」(1000部増刷・3月24日発行)の紹介・普及
- ()当院近隣医療機関でも当院でも被災地から受診されています

■(3/23)福岡歯科協会、被災地への歯ブラシ無償提供を依頼

福岡歯科協会は3月23日、マツモトキヨシや UFC サプライなどの会社に対して、被災住民のために歯ブラシを無償提供していただけないかとのお願い文を送付した。お願い文には「阪神・淡路大震災では、助かったいのちが、口腔内の清掃などが不備となり、誤嚥性肺炎による高齢者の死亡が多く出たことが指摘されています」「歯ブラシを配ることが被災住民の命と健康を守る上からも緊急の課題です」などとお願いしています。

■

保団連・住江会長ら先遣隊、盛岡に到着

保団連は3月16日、住江憲勇会長を先頭に、大阪歯科協会事務局1人、兵庫協会2人で構成された先遣隊を派遣。東日本大震災に罹災した宮城、岩手、福島各協会を激励し、大阪保険医協同組合の協力で集められた医薬品200万円分と義援金の提供を開始した。



宮城北村理事長(右)に義援金を手渡す住江会長
しいことを申し出た。

初日は東京から東北自動車道で360キロを北上し、宮城協会に到着。住江会長は震災と津波被害に遭われた被災者と医療機関に心からのお見舞いを述べるとともに、北村龍男理事長に対し、保団連は全力で会員医療機関の支援に取り組むこと、必要な支援は遠慮なく要請して欲

北村理事長は、地震発生直後、津波被害に会った地域に訪問診療を予定していたが、偶然別の地域から往診の依頼を受けて出動し、九死に一生を得たエピソードを紹介。

クリニックの目前、海岸線から6キロ地点まで民家が丸ごと流されて来ている恐怖の体験を語った。宮城協会会員では依然として気仙沼地域の役員1人と音信不通。安否確認と現状把握、医療支援の可能性を探っている。

先遣隊はこれより山形県で一泊し、17日は岩手協会に向かう。そして、東日本一帯での燃料不足や福島原発の情勢も鑑みながら福島協会を目指す。

保団連からは3協会に500万円の見舞金を提供、兵庫協会は200万円の見舞金を予定している。
2011/03/16 兵庫協会 事務局・小川昭氏からのメール通信

3月17日、保団連先遣隊、岩手協会を訪問

住江憲勇会長を先頭に、東北関東大震災の罹災協会を激励訪問している保団連支援の先遣隊4人は17日早朝6時、宮城から陸路猛吹雪の中、岩手県にむけ東北道を200キロ北上。岩手協会に支援物資と見舞金を届けた。

箱石勝見岩手県協会会長は、「被災後7日経ったが、いまだ会員の安否を確認できない。報道されているように大船渡、陸前高田の市街地は壊滅状態にある。沿岸部の会員医療機関や自宅はほぼ全滅ではないか。避難所などで生存が確認できた会員も一部いるが、依然安否の確認に全力を挙げている。医院や医療機器の損壊状況も集約中。電話などの通信手段も沿岸部では全く復旧していない。県内を移動したくてもガソリンも無いので行けない。約1000人の会員のうち約150人が沿岸部、情報集約に全力を挙げている。」と惨状を訴えた。



「まずは会員安否確認に全力を。保団連と会員は会員とともにある、寄り添うことを被災会員に一刻も早く伝えたい」と、住江会長は被災した東北各協会を全力で支援する決意を表明した。17日午前11時現在、沿岸部148医療機関（会員）のうち、生存の確認が取れているのは86人。また、14日時点で実施されたファックスによる安否確認には194医療機関（医科127、歯科67）から回答があり、医科3医療機関と歯科6医療機関が休診していることが17日現在判明している。



内陸部、盛岡の市街地は地震による被害は、東北新幹線の高架橋脚にがひび割れするなどがあるものの、市街地の損傷は、沿岸部の津波被害を比べると比較的軽度。しかし、当地でも食料と燃料の不足は深刻で、一見市民生活も通常通りに見えるが、品切れで閉鎖中のガソリンスタンド前には入荷を待つ自動車が長蛇の列。コンビニエンスストアやパン屋の前には食料を求める住民が寒さと行列に耐えている。

昨日訪問した宮城県はさらに深刻な様相。

電気は徐々に復旧しつつあるが、ガス、水道が復旧しておらず、尽きかけた食料をわけあっている状況。都市ガスの復旧はめどが立たず、被災者が暖を取り、暖かい食品を採るためにも、カセットガスコンロ、ボンベが当面は大量に必要。

先遣隊一行は宮城県民医連が確保している支援要員用に確保している施設に宿を得たが、其処自体津波被災している松島温泉旅館地域は電気は復旧したものの水、ガスは絶たれたままで、食料もない。館内も鏡、ガラス類などが割れたままになっている。周辺道路も津波被害の深刻な爪あとが色濃い。道路状況も幹線を中心に改善しつつあるが、破損した自動車や家屋、瓦礫の山を掻き分けながら進むことになる。 2011/03/17 兵庫協会 事務局・小川昭氏からのメール通信

保団連、東北大震災の甚大な被害への貴職の救援活動に対し、菅総理と細川厚労相に要請

内閣総理大臣 菅 直人 様
厚生労働大臣 細川 律夫 様

2011年3月15日
全国保険医団体連合会
会長 住江 憲勇

東北地方太平洋沖地震の甚大な被害への貴職の救援活動に対し、感謝申し上げます。さて、被災された方々の生命と健康を守るための医療支援と、被災地域の医療体制の復旧・復興は、緊急・不可欠の課題であります。当会は、医師、歯科医師 10万3千人の団体として、下記の通り緊急要望書を提出いたします。早急の対応をお願いいたします。

－ 記 －

- 被災地域の医療機関への医薬品、医療材料などの迅速な供給・確保を実施すること。(1)被災地域の医療機関に対する医薬品、医療材料、食材などの供給・確保を国の責任で実施すること。(2)医薬品、医療材料の迅速な供給・確保をメーカーに指導すること。(3)被災地の医療機関等に不足しているガソリン、自家発電用の燃料等を十分に供給できるよう必要な手だてを講じること。
- 被災者の医療費一部負担金および入院時の食事一部負担金を免除し、医療費が無料になる措置を直ちに講じること。また被災者および被災事業所の国民健康保険料(税)、後期高齢者医療制度保険料、社会保険料の負担免除および軽減措置を講じられたい。(1)すべての被災者に対し、医療費一部負担金および入院時の食事一部負担金の免除および減免措置を直ちに行うこと。(2)被災者の医療費一部負担金および入院時の食事一部負担金を免除および減免する措置を、保険者および県を指導、財政援助して旺盛に実施させること。(3)すべての被災者に対し、保険料(税)の免除および減免措置を直ちに行うこと。(4)被災者の保険料(税)を免除および減免する措置を、保険者および県を指導、財政援助して旺盛に実施させること。(5)保険証を紛失した被災者への保険証再発行にあたっては、短期証および資格証を発行せず正規の保険証を発行すること。
- 被災者の介護保険の保険料および利用料の免除および減免措置を講じること。
- 被災地の療養型病院においても急性期医療ができるよう、投薬・注射、処置など包括範囲について、出来高払いを認めるなど必要な手だてを講じること。
- 被災者に対する入院医療を確保するために、定数超過入院、入院基本料の人員基準、食事療養の基準が満たせない状況が生じてもペナルティを課さないこと。また、入院中の患者さんへの専門外の治療を確保するため、他医療機関受診の規制を凍結すること。
- 被災地における在宅医療を確保するため、往診や訪問診療、訪問歯科診療、訪問看護等を実施する車両については、駐車許可証(駐車禁止除外標章)がなくても、医師、歯科医師、看護師等であることが証明できる場合は駐車禁止区域でも駐車を許可すること。また、このことを警察など関係機関に周知すること。
- 避難所において新たな病人を発生させないために、医療機関に準じての感染対策 ―うがい、手洗いの励行などの対策― を講じること。そのために、うがい薬、手洗い用薬、マスクなどを常備すること。また避難所に必

要な数の仮設トイレを設置し、毛布と燃料(灯油等)を届け、被災者に十分な量の栄養のある食事を提供すること。

8. 被災者のインフルエンザワクチン接種、肺炎球菌ワクチン接種を無料で実施すること。また「心のケア」など長期的な見通しにたった継続的な医療支援を行うこと。(1)希望されるすべての被災者に対し、直ちに無料でインフルエンザワクチン接種、肺炎球菌ワクチン接種を実施すること。そのための広報を急ぐとともに、必要なワクチンの確保を行うこと。(2)PTSD を含む長期の医療ケアが必要な方々への援助のため、医療支援チームの派遣や巡回診療など被災者の健康確保にむけて継続的な医療支援が可能な体制確保を講じること。
9. 高齢者、病弱者などが適切な医療・療養が確保できるよう、被災地以外での場所の確保を含む、受け入れ体制について行政が責任を持って行うこと。
10. 被災医療機関等における診療報酬支払いを滞りなく確保すること。(1)2011年3月分の診療報酬請求期限の延長はもとより、請求が困難な医療機関に対しては、実績に基づく概算払いの実施を行うこと。また、2011年5月支払い分(2011年3月請求分)の早期支払い措置など被災医療機関への支援を行うこと。(2)被災地の医療機関などが被災者救急医療や避難住民の健康を守るために行っている医療活動、診療活動に対して、出張診療への保険適用や災害救助法の適用拡大など最大限の経済保障を行うこと。11. 被災地の介護保険事業所における介護報酬を滞りなく確保すること。12. 被災した医療機関および福祉施設への復旧・再建のために緊急支援を直ちに行うこと。地域住民の生命と健康を守る立場から、公的、民間問わず被災医療機関の医療機能の復旧・再建にむけ、支援対策を激甚災害法や特別立法の対象とするとともに、緊急かつ必要な支援措置を国、県あげてとりくむこと。(1)医療機関全半壊の場合等における仮設診療所での診療行為を保険診療扱いとするなど、仮診療施設の確保を含む被災地域の入院、外来、救急、在宅それぞれの医療機能確保、要介護高齢者の生活とケアの保障にむけ必要措置を講じること。(2)公的、民間問わず被災した医療機関の復旧・再建にむけ公的資金による支援制度の創設などを直ちに実施すること。(3)無利子、長期の別枠の緊急融資制度を創設し、ただちに実施すること。

2011年3月16日

第1号

東日本大震災 救援 FAX ニュース

全国保険医団体連合会

■(3/16)住江会長、東北3県に出発…薬品など届ける



中央の白衣が住江会長。最前列と右端が文化連事務局。

住江会長は3月16日午前8時30分、岩手・宮城・福島の激甚被災地に薬品などを届けて激励するため、事務局5人と2台の車に分乗して東京を出発した。

出発にあたって住江会長は「被災された協会を激励するとともにこれから続く支援隊の第一陣として足場を固めてきたい」と述べた。また同乗する事務局員は「住江先生をしっかりと

守る。安心して下さい」と述べた。

住江会長の乗った第一陣は福島、宮城、岩手の3協会を目指す。現地の道路事情等を判断して行動することになる。同乗する事務局は兵庫協会の小川次長、吉永事務局員、大阪歯科・西野事務局員と文化厚生連の事務局2人。19日には文化連のトラックが薬品を積んで現地に向かうことになっている。

■(3/16)宮城協会…津波被害地、電話つながらず

保団連はじめ富山、東京、福井の協会から義援金をいただきました。厚く御礼申し上げます。野地事務局長の指示により、宮城の状況について報告します。(宮城協会事務局・笠井)

仙台市内中心部から郊外へと徐々に電気が復旧しつつあります。ガスの復旧は当初3週間から1ヶ月と言われていましたが、予想以上の被害が明らかになり、復旧までには相当長期間かかりそうです。

役員の安否ですが、直接、間接的な連絡で、気仙沼市内で開業している理事1人以外は安否が確認されました。現在、会員の安否確認を継続中です。仙台市内の会員の医療機関は通常通りとはいきませんが診療を再開し始めました。仙台市以外でも再開したところがあるようです。

電話が通じるのは依然として仙台市の中心部、仙台市以外ではほとんど通じません。電気が普及すれば通じる地域が拡大するのではないかと思います。津波で被害を受けた海沿いの地域では全くつながりません。電話での安否確認は仙台市以外の会員については遅々として進まない状況です。多賀城市の歯科会員から津波で診療所が流されたとの電話がありました。

本日朝、野地事務局長が県庁の医療整備課に行って情報収集してきました。現在、避難所等で医療活動を行っているのは、日赤、自衛隊、国境なき医師団などの医療ボランティアだそうです。別の情報では、自身が被災者として避難しながらも避難所で医療活動を行っている会員もいるとのこと。避難所等での医療活動支援の方法については、現在、医療整備課を通じて調査中です。

明日開かれる当会の理事会で震災対策について検討します。支援要請の内容が決まり次第ご連絡しますので、その際にはよろしくお願い致します。

■(3/16)山形協会…多数の被災者、山形県に避難

ご支援ありがとうございます。事務局は支障はありませんが、多数の震災被災者が山形にのがれてこられています。仙台、福島から。新聞報道では避難所に3月15日現在、県内10の市町村に517名がおられるとのこと。うち福島からが最も多く昨日は380人でしたが、本日の報道では450人とのこと。最も福島県に近い米沢に逃れて来られております。米沢市の公共施設だけでは対応できなくなっているとの報道です。親戚・家族宅に身を寄せられた方々もおられるでしょうから、実際はもっと多いと思います。

計画停電の中に山形県も入っておりますが、日常診療にも支障をきたすだけでなく、こうした被災難民に迅速な診療をできなくなるのではないかと考えております。本日の新聞報道でも医療機関は自家発電に限界との声が出ていますが、青森・秋田・山形3県は後方支援診療やを行っており、計画停電から外してほしいと思っています。協会では会員の要求をまとめています。

■(3/16)茨城協会…ガソリン不足で患者さん通院できず。

茨城県の本日現在の被害状況ですが、県北地方にかなりの被害が出ています。地震も回数はかなり減りましたがまだ続いています。常磐道は今日になり、一部の区間開通はしたものの、JR常磐線(取手以北)、つくば～秋葉原間のつくばエクスプレスも、運休している状況です。

県北の会員の医療機関では、建物はなんとか無事でしたが、現在ライフラインで水道・ガスがまだ復旧していないので、本当に困っているとの事でした。県北では、電気も復旧していない地域もあります。食料も不足していること、また全県でガソリンが不足し、患者さんも通院できず、県北地域のかんりの診療所で休診していると聞いています。